

いたち川の貝や甲殻類

布村 昇

貝

いたち川にいる巻貝で最も大きな貝はカワニナです。カワニナはホタルの幼虫のえさになる貝です。ホタルは成虫になると特別なえさはとりませんが、幼虫の時はどうもうにカワニナを襲って食べてしまいます。私たちはカワニナがたくさん取れることを願って調査しましたが、のべ3回の調査でわずかしんせん橋より上の場所で8個体しか確認できませんでした。ところが、8月にホタルを調査したところ、しんせん橋から上流にかなりたくさんのヘイケボタルが確認されました。このホタルは水田や小川のカワニナを食べてふえているものと思われます。なお、その他には汚れに強いサカマキガイやモノアラガイが主として下流部で見つかりました。

甲殻類

甲殻類のうち、エビやカニの仲間にはいたち川では、下流部でアメリカザリガニとモクズガニの2種類が見られました。アメリカザリガニは名前のとおり、アメリカ合衆国のミシシッピ川流域から日本にはいつてきたもので、神奈川県から主として太平洋側に早くひろまったのですが、かつては日本海側にはあまり見られませんでした。

モクズガニははさみに毛の房があるところから、富山では俗にケガニなどともよばれています。もちろん海にいるケガニとはちがいます。

甲殻類はエビやカニの仲間だけではなく、ミジンコやダンゴムシも入ります。今回はミジン

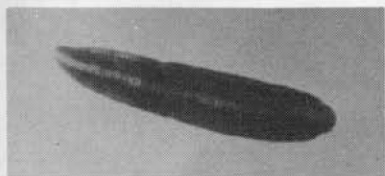
コのように微小なものは調査しませんでした。ダンゴムシに近い仲間のミズムシ（足の裏にいる菌類のかゆーいあれではない！、また、昆虫のミズムシでもない）が大量に生息しているのを確認されました。しかも上流部から下流まで幅広く分布していました。

ヒル、その他の動物

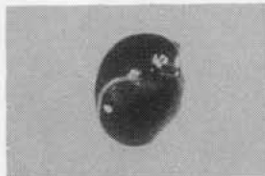
いたち川底に最も多くいる“虫”はヒルでしょう。その中でも最もたくさん見られるのはシマイシビルという種類です。今から30年ほど前、私は小学生でしたが、学校から帰ると毎日のように冷川や四ツ谷川で魚とりをしていました。そして、いつも知らない間にチスイビル等がついていたものでした。ところがいまこの吸血性のヒルは今回の調査では1頭もみられませんでした。ヒルの世界もわずか30年でずいぶん様子がわりしてしまったものです。ヒルのほかにはヤマトヒモミズとナミウズムシが上流部で見つかりました。

今回の調査でシマイシビルとミズムシが多いことがわかりましたが、これは、ヒルが吸盤で石に吸着し、ミズムシは14本の長い足で水草の茎にしがみついて、速い水の流れにも対抗していると思われる。流れに逆らえないものはこの川には住みにくいのではないのでしょうか。今後、10年、20年後、どのように生き物の顔ぶれが変わっていくのでしょうか。見守っていく必要があると思います。

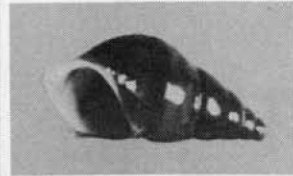
（ぬのむら のぼる）



①



②



③

①シマイシビル

②モノアラガイ

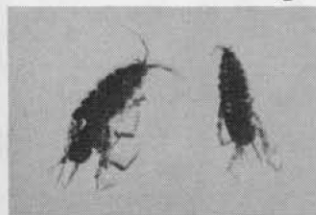
③カワニナ

④ミズムシ

⑤モクズガニ

⑥アメリカザリ

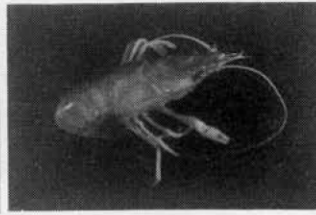
ガニ



④



⑤



⑥